



酒井はやみ 議員
(日本共産党
幕別町議員団)



被爆者の長年の訴えが世界を動かし、核兵器禁止条約の発効まであと一歩と迫っている。一方、世界に未だ約1万4千発の核兵器が存在している。

コロナパンデミックは、軍事力がウィルス抑制に何の力も発揮しないこと、国際社会が連帯して協力しあう必要性を浮き彫りにした。核兵器禁止条約に背を向け続ける日本政府が姿勢を改め、条約の署名・批准に向かうことが求められている。

戦争体験を直接語ることのできる世代が減る中で、高校生の「原爆の絵」の取組など、若い人が語り継ぐ役割を果たし始めている。幕別町でも、若い世代が戦争の歴史を学び語り伝える力をつけられるよう、また主権者としてこれからの社会の在り方を選択していただけるよう、どのような姿勢で平和事業、平和教育に取り組むのか伺う。

(1) 平和事業の取組と評価は。

(2) 町民や子どもたちが、戦争の歴史を学べる機会の充実を。

問

次世代に語り継ぐ平和教育の充実を

答

歴史資料等の収集に努め、町内の語り部を尋ねあてることも検討したい

- ① 学校教育の中での取組は。
- ② 記録、体験、戦跡を整理して、次世代に引き継ぐ取組は。
- ③ 町民の生活の中における取組は。

町長

(1) これまで平和非核宣言の看板を町内4か所に設置したほか、平和への願いを込めた千羽鶴を被爆地である広島市および長崎市に贈る運動を町民に呼びかけ、本年も2千羽以上の折り鶴が集まった。終戦記念日に合わせて広島市「原爆の子の像」、長崎市「原爆資料館」に捧げている。また、毎年8月には、幕別地区、札内地区および忠類地区の3地区で順番に、原爆パネル展を開催するなど住民意識の喚起等に取り組んでいる。このような平和事業を通して、町民の皆さんが核兵器の脅威と平和の尊さについて考え、感じていただく機会となり、平和非核宣言の具現化に寄与しているものと捉えている。

教育長

① 小学校では、学習指導要領上、第6学年の社会に位置付けられ、我が国が日中戦争や第二次世界大戦などを経て、戦後の民主的な国家として出発し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを学ぶこととされている。地域学習を主体としている第3学年および第4学年の社会では、副読本においても、戦争の記述は年表で北海道空襲を表示しているほか、巻頭・巻末に町の史跡を記した「歴史の散歩道」を掲載している。

② 町内の戦争の記録や体験、戦跡に関する資料は、図書館本館の郷土資料のスペースの一角に設けている戦争に関するコーナーに保存している。映像の資料はないが、自分史や文集などの一部に関連する記載のある図書を含め、約30冊を所蔵している。

③ 本町にも、空襲による爆弾投下跡や蒸気機関車が破壊された記録のほか、戦没者の名前が刻まれた碑など、第二次世界大戦の暗い傷

跡が残されている。こうした事実を戦争経験のない多くの方々に知っていただくため、機会を捉えて広報紙の特集ページの掲載について検討していく。終戦から75年、多くの尊い命、財産、自然、文化を失った体験の記憶が薄れつつある中、今後も引き続き、戦争に関わる歴史資料等の収集に努めるとともに、町内の語り部を尋ねあてることも検討しながら戦争の残した教訓や平和の大切さを学べる機会を設けたい。

再質問

幕別町も参加する「平和首長会議」が提起する、被爆樹木2世の植樹、核兵器禁止条約の署名を町民に呼びかける取組について検討する考えは。

答 植樹の意味合いというものも十分考え、署名の取組とあわせて、今後の検討課題としたい。



幕別町空襲の爆弾爆発跡
(幕別町図書館本館 東側)